

科目名	計量経済学A Econometrics A						
科目担当者	墨 昌芳 SUMI Masayoshi						
単位数	2	配当年次	2年	授業形態	講義	開講学期	前期
履修学部・学科 [区分]	経営学部・経営学科 [専門教育科目 専門科目]					ディプロマポリシーとの関連	(3)(4)
授業の概要	本講義では、計量経済学を学ぶために必要な統計学の基礎についての復習から始め、回帰分析（重回帰分析）による推定・検定、モデル選択までを学習します。特に、調査研究に必要な基本統計量の計算、及び、考察の仕方なども具体的なデータを基に学習します。講義スタイルは、パワーポイントを利用したプレゼンテーションと、教員によるパソコンを使ったデータ分析の説明、及び、受講者による課題演習になります。さらに、受講生自身の興味・関心のあるテーマについて、学んだ手法（最小二乗法）を実際に活用してもらう機会としてグループ発表を行う予定です。						
授業の到達目標	①政府統計の総合窓口（e-Stat）から必要な統計データを入手でき、基本統計量を計算し解釈できる。 ②データ分析（重回帰分析など）を行うことができる。 ③賃金決定モデルに関して正しいモデル選択を行うことができる。						
授業計画・内容	1	ガイダンス：計量経済学を学ぶ意義、今後の講義概要					
	2	統計学の復習（1）：統計データに関する全般的な説明					
	3	統計学の復習（2）：統計理論の説明（基本統計量を中心に）					
	4	統計学の復習（3）：エクセル（分析ツール）を使った統計分析の説明					
	5	散布図、相関と回帰分析					
	6	仮説検定					
	7	単回帰分析（1）：理論の説明					
	8	単回帰分析（2）：エクセルを使った課題演習					
	9	単回帰分析と内生性の問題					
	10	重回帰分析（1）：理論の説明					
	11	重回帰分析（2）：エクセルを使った課題演習					
	12	最小二乗推定量の性質、分布の特性					
	13	回帰分析によるモデル選択					
	14	プレゼンテーション（1）：第1グループによる発表					
	15	プレゼンテーション（2）：第2グループによる発表					
授業外学修 (事前学修)	発表のための準備を行う（15時間程度）						
授業外学修 (事後学修)	授業内容について分からない点などを復習し、不明点を調べておく（毎週2時間程度、合計30時間） 課題を作成する（15時間程度）						
成績評価方法・ 評価比率・到達 目標との対応	成績評価方法					評価比率	到達目標との対応
	定期試験 課題の提出 プレゼンテーション					50% 30% 20%	①、②、③ ①、②、③ ②、③
成績評価基準	秀：（評点90点以上）到達目標を極めて高い水準で達成している場合 優：（評点80点～89点）到達目標を高い水準で達成している場合 良：（評点70点～79点）到達目標を一定の水準で達成している場合 可：（評点60点～69点）到達目標を最低限の水準で達成している場合 不可：（評点60点未満）到達目標に達していない場合						
教科書	教科書は特に使用しない。教材を必要に応じて（ほぼ毎週）配布する。						
参考文献	Wooldridge, J. M. <i>Introductory Econometrics: A Modern Approach 5th Edition</i> , Cambridge: MIT Press. 山本 拓『計量経済学』新世社						
その他	本講義を履修するにあたっては統計学Ⅰ・Ⅱを既に履修していることが望ましいのですが、未履修者もフォローできるよう、当初は統計学の復習を徹底的に行う予定です。 <どのような学生の受講が望ましいのか> 統計データを使った調査・研究に興味がある学生 卒業論文に統計分析の使用を考えている学生 <あらかじめ受講して欲しい科目> 統計学Ⅰ・Ⅱ						